

## 昭和は古代か縄文か

中 林 幸 夫

(会員 香川県国分寺町)

最近、各地に歴史資料館が建設されて、中を覗くと、鍬・鋤・箕等の農具や、唐臼・石臼・水車、それに鍋・釜・竈から火吹き竹まで、所せましと並んでいる。

先日、資料館のかた隅で小学生が、わら縄をない、石臼で小麦を挽いていた。昔のことを体験していると云うが、表情は古代か縄文時代を垣間見るような厳しい顔つきである。

私たちにとっては、昭和の初期まで毎日使っていた生活用具であるが、資料館に並べられていると、遠い昔の物のように思えるから不思議である。

何故これほど生活が大きく変わったのだろうか。

電気釜が出はじめた頃、これでご飯を炊くことに、精神的に抵抗した人も多かったが、今では竈で炊く人など

ほとんどいない。

電気釜・冷蔵庫・洗濯機・レンジにポット、ラジオ・テレビ・そろばんに変わった電卓と、生活は電気なしでは生きられなくなっている。

それでは、何時頃から我々の生活に電気が入ったかと云うと、数十年前であり百年もたっていないが、その進展の状況を正確に知る人は意外と少ない。

人々が電気を生活に利用したのは、「灯」である。

電灯が発明される以前はと云うと、何百年もの間、なたね油等を皿にそそいで火をともしたり、ローソクに火をともし、行灯や提灯に入れて照明としてきた。

明治の初期に石油が輸入され、七年頃(一八七四)我が国でも石油が採掘されるようになったことから、石油ランプが普及して行灯はすたれていった。

我が家でラジオを買ったのは昭和何年、テレビを見たのは何年と記憶している人は多いが、電灯が何時頃ついたかを知る人は少ない。

明治四十四年(一九一)、九州水力電気株式会社設立となつてゐるから、佐伯地方に電気が供給され、普及したのはそれ以後である。

私の手もとにある水ノ子灯台退息所(鶴見町下梶寄)

の資料によると、下梶寄での点灯は昭和六年（一九三二）である。

文書によれば、梶寄から下梶寄まで、約一五〇〇メートルの外線工事は八百円で、その内六百円は村費負担で二百円は地元民の負担となり、資材運搬等のため人夫百八十人が地元民の奉仕となっている。

梶寄、下梶寄間は距離にして約一五〇〇メートル、電柱を立てて電線を張るだけであるが、電柱は佐伯方面から運ばれたものを陸揚<sup>あひ</sup>して、搬送したのだろうか。当時の電柱の太さ長さはわからないが、重機のない時代、人力だけでは大変だったと思う。

私たちが子供の頃は、電柱を電信柱<sup>でんしんばしら</sup>と呼んでいた。電柱よりも電信柱の方が歴史的に古いからで、昔の人は電線の中を電報が送られてくるのを不思議に思い、電線に荷物を掛けた人がいたと聞いたことがある。このような話から考えると、電柱の高さは現在のものより低いものであったかもしれない。

奉仕人員延べ百八十人と云えば、地元民は全員参加したようで、人々が電気的点灯をいかに期待していたかがうかがえる。

当時の電灯料は十六燭光一灯で月額八十銭、電球の交

換は一個十銭となっている。

昭和六年（一九三二）、鶴見半島の先端に文明の電気が点灯して、県南の大部分に電力が供給されたことになり、現代の電化時代の幕開けであったと思われる。

二宮尊徳が薪を背負って本を読んだのは、夜は灯りがなくて読書ができなかったからであるという。

私も戦後、対馬で生活していたとき、電気がなくて真暗な夜は大変だった。見たす中に一つのあかりもないと、道を歩くのも大変だった。昔の人は村のはずれ等に常夜灯（石籠）を置いていた。

今、高層ビルの都会生活において、もし電力の供給が一〜二ヶ月停止したとしたら、人々は生きる知恵を持つだろうか。高層ビルでの停電、エレベーターや水道の停止は勿論、暗闇の中でどのようにして米を炊き食事をするだろう。古代人の生活にかえることになるかもしれない。

石臼を挽いていた子供達が、古代人の体験のような顔をしていたが、石臼は天平時代に伝来したようで、太宰府の観世音寺には、当時のものと云われる石臼（天平の碾<sup>うす</sup>碓と呼ぶ）がある。石臼は天平時代から昭和の初期まで使われたもので、現代の子供達にとっては古代人の体験かもしれない。我々も、うどなが食べたいと云うと、

石臼を挽かされた思い出がある。

私はかつて、延岡から椎葉の里へ行く途中、ダムから引水された水力発電所に立ち寄って、発電所の内部を見せてもらったことがある。地下数十メートルのところへエレベーターで降りると、大きな発電機が静かな音をたてて回転していた。驚いたのは発電機の大きさである。固定するナット・ボルトの大きさは、私が生まれて見たものの中で一番大きく、このボルトを回すのに使用する何メートルもある超特大のスパナが地下に置いてあった。以前、神戸の三菱電気で発電機のコイルを巻くところを見たが、このコイルも電線ではなく銅の帯で、大電力の発電機は想像以上のものであった。

椎葉では発電所の建設経緯を聞かなかったが、佐伯地方への電力供給源だったかもしれないと思ったりする。

明治・大正・昭和へと文明開化の灯をともした電力・知識の少なかった日本人にとっては、発電―送電―点灯と大変な苦勞があったように思われる。

華やかな電化生活の出発であったはじめて電灯のともった各地の喜びを、歴史に残したいものである。

明治五年（一八七二）新橋―横浜間に陸蒸氣が走って  
大正五年（一九一六）佐伯まで開通するのに四十四年

#### 間約半世紀

明治十一年（一八七八）東京でアーク灯が点灯してから  
昭和六年（一九三一）鶴見半島の先端に電灯がつくまで五十二年、約半世紀かかっている。

これら、電気・鉄道の発達の経緯は、年齢からしても会員の方々でも、正確に覚えていらっしゃる方ではなからうか。

地方に於ける電気・鉄道等、発達の特集号があっても良いのではないかと思う。土器や古墳だけが歴史ではない。昭和五十年頃、直川―直見間で貨車入れ替え用の小型ディーゼル機関車が、貨車一両と客車一両を引いて、のんびりと走っているのを見た。一度乗ってみたいと思っていたが機会がなかった。佐伯―重岡間の定期列車だったように思う。

考えて見ると、明治・大正・昭和は歴史的には徳川三百年より、人々にとっては長いかもしれない。人生五十年の時代は過ぎた。明治・大正・昭和・平成を生きたことは、歴史的には三百年を生きた価値があるかもしれない。

石臼や こがしを挽いた 日は遠し

参考 電気の歴史 直川一也 他

## 電気と電信電話・鉄道等の沿革

| 年 号    | 西暦   | 沿 革 内 容                                                |
|--------|------|--------------------------------------------------------|
| 明治 2 年 | 1869 | 5 時以降無提灯（ちょうちん）往来を禁止                                   |
| 5 年    | 1872 | 横浜でガス灯点灯・新橋－横浜間鉄道開通                                    |
| 11 年   | 1878 | 工部大学でグローブ電池を使ってアーク灯点灯<br>東京中央電信局にアーク灯点灯                |
| 15 年   | 1882 | 銀座で2,000燭光のアーク灯点灯・東京電灯会社設立                             |
| 18 年   | 1885 | はじめて東京に電灯ともる。                                          |
| 19 年   | 1886 | 内閣官報印刷所にエジソン式発電機設置・白熱電灯点灯                              |
| 20 年   | 1887 | 日本橋で火力発電が行われる。（25KW）                                   |
| 24 年   | 1891 | 水力電気事業はじまる。                                            |
| 25 年   | 1892 | 琵琶湖に水力発電所建設（180KW）                                     |
| 26 年   | 1893 | 日光で水力発電による電気点灯                                         |
| 28 年   | 1895 | 京都に市電走る。（琵琶湖水力発電供給）<br>東京電灯KKがドイツAEG社三相50HZ交流発電機を購入    |
| 29 年   | 1896 | 浅草に火力発電所をつくる。東日本が50HZの出発点となる。                          |
| 30 年   | 1897 | 大阪電灯KKが東京に対抗して米GE社から単相60HZ発電機を購入し、西日本が60HZの統一出発点となる。   |
| 33 年   | 1900 | 別府－大分間にチンチン電車走る。（上等10銭・下等 5 銭 時速13km）                  |
| 36 年   | 1903 | ガラス電球できる。別府・丸亀・上田・高岡で点灯<br>東京に市電開通・500KW火力発電所完成（東京市電用） |
| 38 年   | 1905 | 1,000KWの蒸気タービン発電所完成（電灯用）                               |
| 39 年   | 1906 | 火力発電により工場の電化発達                                         |
| 40 年   | 1907 | 山梨県駒橋に水力発電所（15,000KW）完成<br>タングステン電球できる。                |
| 44 年   | 1911 | 九州水力電気KK設立・鉄道門司－大分間開通                                  |
| 大正 3 年 | 1914 | 猪苗代第一発電所から東京まで220kmの長距離送電開始<br>鉄道佐伯線 大分－幸崎間開通          |
| 4 年    | 1915 | 鉄道佐伯線 大分－臼杵まで開通                                        |
| 5 年    | 1916 | 鉄道佐伯線 大分－佐伯まで開通                                        |
| 11 年   | 1922 | 佐伯－鶴見松浦間の電信電話工事完成                                      |
| 12 年   | 1923 | 佐伯にバスが走る。                                              |
| 14 年   | 1925 | 東京放送局ラジオ放送開始                                           |
| 昭和 6 年 | 1931 | 鶴見町下梶寄まで電力供給                                           |
| 9 年    | 1934 | 佐伯海軍航空隊開設                                              |
| 15 年   | 1940 | 佐伯海軍防備隊開設                                              |
| 16 年   | 1941 | 太平洋戦争はじまる。                                             |